

はじめに

自前の仕事・情報を自前の言葉で伝える、という主旨でスタートしました P-voice も第3号となりました。21世紀を迎えて、都市/まちづくり/建築/をめぐるとある大きな転換期を迎えつつあると、かねてからことあるごとに述べてきましたが、2001年9月11日のニューヨークでのテロ以降、このことはますます速度を速めつつ、顕在化していく予感がします。

モダニズムの時代を牽引してきたアメリカ文化・グローバリズムの考え方・価値観がどこかで、しかし着実に崩壊しつつあるように思います。その先に有るもの、求めていくべきものは何なのでしょう。真に生き続ける空間、育まれていくべき環境とは、どのようなパラダイムを持つものなのでしょう。日々の仕事の中に少しでもその方向性を見出し、根付かせていければと思っています。

「われわれはどこから来たのか われわれは何者か われわれはどこへ行くのか」  
(ポール・ゴーガン, 1897年)



2002年 春 所長 三好 庸隆

## Project report 1: コージースクエア御影

~各戸が独自性を持つすまいの集まり~

集合住宅を計画するに際しては、いつもその事業性と居住環境計画の狭間で悩まされます。そして採算性を重視するあまり、箱型プランを並べて集合した住宅となってしまう傾向があります。

阪急・御影駅より山手に5分、閑静な佇まいの成熟した住宅地に計画された『コージースクエア御影』は、与えられた敷地にどう住宅を配するかではなく、まず豊かな住環境と土地の気配・地勢を読み取ることからはじめました。そして建物の軸線は、太陽の恵みを最大限、享受できるよう真南に取り、地形に素直に順応することで、海に繋がる眺望の開けた斜面地に南面段上構成の雁行型3棟分棟配置という形態になりました。

それは、従来の集合住宅ではなく、全住戸が4面採光・通風を確保し、レベル差の異なる2つのコート(中庭)を有した、各戸が独自性を持ったすまいの集まりといえます。

設計は、第1種低層住居専用地域、風致地区、宅造規制区域の中で、平均地盤と高さ制限と緑地率との格闘の連続でしたが、その結果、容積率80%に対

して、傾斜地の特性を生かし「住宅地下室の容積率不算入の特例」を適用することで、住戸専有床面積合計だけでも約94%という高効率の計画となりました。

平成14年の秋には全22邸の新しい住まいを示した集合住宅が完成する予定です。



イメージパース

プロジェクトデータ

名称: コージースクエア御影

所在地: 神戸市東灘区住吉山手4丁目

敷地面積: 2,451.65㎡

延床面積: 3,349.97㎡

PPI担当: 三好、内田、桑原、田中、徳田、目加田

## Project report 2: 八尾市菅大正住宅

~住民参加型の建替え計画が進行中~

八尾市では、昨年度策定された住宅マスタープランをもとに市営大正住宅の建替えを住民参加型で行うこととなり、近畿大学助教授 久隆浩先生・学生さんと共に PPI はコンサルタント・ファシリテーターとしてそのお手伝いをしています。従来の建替え事業ではあらかじめ行政側が計画案を作成し、それをもとに住民側と折衝するという言わば「住民対行政」的な方法が主でした。しかし、八尾市では「住民との協働による建替え」を市営住宅再整備の方針として掲げ、建替えや将来の生活に関する「生の声」を住民と行政が相互に真に理解し、必要となる様々な情報を十分に提供し、その上で再整備の方向性や事業の進め方を十分な意見交換をもとに共に考えていこうとしています。

これまでに建替え協議会活動(ワークショップ)を5回行い、住民が抱えている不安や問題点を顕在化

(約450の意見)させると共に、大きな不安材料であった建替え後の家賃や仮移転の方法や費用負担等について概ねの内容を示しました。また、建替え後の大正住宅のイメージについても模型を使いつつ意見交換を行ないました。これらの協議会活動を通じて、住民間はもちろんのこと、住民と行政の間の相互理解が深まり、「協働」の体制が整いつつあると感じています。将来、この「協働」体制の基で、住民及び行政が共に誇れるような建替えを実現したいと思います。(『建築ジャーナル』(2001年10月号)に関連記事が掲載されています。)

PPI担当:  
三好、柴田、川村



ワークショップの様子

## トピックス

《1》野田のまちづくりを考える会

「野田のまちづくりを考える会」では(P-voice vol.2に紹介)11月8日にまちの主な課題の一つである老朽住宅の建替等に関することを中心に議論していく「住環境部会」、11月15日にまちの良いところ(緑、花、路地空間など)を伸ばしていく「魅力づくり部会」の2部会を開催しました。いずれの部会も約40名ほどの参加者があり、第1回目の部会ということもあって参加者のみなさんの一人一人の「まちへの思い」を語っていただきました。なかでも、100歳をお迎えの方のハキハキとした正確なご意見に一同驚きを隠せませんでした。

今後は、以前に行ったアンケート調査結果と部会での意見を反映しながら、参加者と一緒に少しずつ前進していければと思っています。



PPI担当: 三好、近藤、川村

《2》「豊中市 中学・高校生のためのまちづくり講座」

が日本建築士会連合会賞(業績賞)優秀賞を受賞!

PPI 所長の三好がかねてより熱心に取り組んで来ましたが「豊中市 中学・高校生のためのまちづくり講座 実践活動」(P-voice vol.1に紹介)に対して2001

年10月、『第16回日本建築士会連合会賞(業績賞)優秀賞』が贈られました。以下に受賞理由として書かれた論評を引用します。

(まち)と関わる建築士の実践的社会活動につき改めて考えさせられる業績である。受賞者の三好庸隆氏が、今、関わっている豊中市は、熱心な(まちづくり)政策で知られた都市であり、1993年1月に(まちづくり条例)を施行以来、これに沿った施策を次々と打ち出している。

(まちづくり)については日本各地で種々の試みがなされているが、豊中市でも小学校3・4年生を対象に社会科で(まち)の産業、歴史、環境、土地利用問題などにつき教育が行われてきたということである。

しかし、社会認識が急速に高まる年齢期にある中学・高校生にとっては、社会科や家庭科の座学で(まちづくり)の概念を学ぶだけでなく、自らの意志でその現実に関わることが、より有益な経験となる。

今日のように青少年の社会観や行動などが大問題となっている時、1997年から豊中市で開講されている「豊中市 中学・高校生のためのまちづくり講座」につき、三好氏は建築専門家の立場から、その企画や教材づくりをはじめ、講座の実施過程まで全面的に協力してこられた。建築士がその職能を活かし、少年たちの実社会教育に貢献している積極的な活動を評価したい。

(『建築士』2001年11月号)

## トピックス

《3》「そぶら・貝塚 ほの字の里」が大阪まちなみ賞特別賞を受賞！

大阪府内で周辺環境の向上に役立つ景観上優れた建物やまちなみを表彰する『大阪都市景観建築賞(大阪まちなみ賞)』の第21回授賞式が平成13年12月7日に行われ、PPI計画・設計研究所が計画・設計・工事監理を行いました「そぶら・貝塚 ほの字の里」(P-voice vol.1 に紹介)が特別賞を受賞しました。

審査委員の方々からは、「足を踏み入れた瞬間、懐かしさを感じ、集落の人々の子弟への思いと、児童たちの記憶が伝わってくる。小学校という地域の景観資産を生かした先駆的な試みとして高く評価したい。」(鈴木毅大阪大助教授)「農村集落の廃校となった小学校を活用した施設で、木造校舎のイメージを彷彿させる建物であり、地域の思いが継承されたものと考えられよう。」(増田昇大阪府大教授)などの評価をいただきました。



《4》大道通5丁目共同住宅(グランドーレ大道)がいえなみ賞を受賞！

神戸・新長田駅北地区では「杜の下町」を震災復興のまちづくりの基本理念として、緑豊かな家並みづくりが推進されています。本地区の景観形成に寄与した建築物等に贈られる『杜の下町いえなみ賞』の第2回授賞式が平成13年9月23日に行われ、PPI計画・設計研究所が設計・工事監理を行いました震災復興共同建替事業「大道通5丁目共同住宅「グランドーレ大道」(P-voice vol.2 に紹介)が「いえなみ賞(共同・協調化部門)」を受賞しました。



《5》『都市環境デザインの仕事』(学芸出版社)出版される

都市環境デザイン分野の職業を目指す若者に向けた、「必読の一冊」(学芸出版社)として企画された標記の本が出版されました。その中で、PPI所長の三好が「建築へ/都市へ/まちづくりへ 考えてき

たこと・実践していること」と題して15頁に渡る論文を、またPPI所員の近藤が、この分野の若手専門家を代表して「山の中と都市の中で 企画・計画・設計・施工に渦巻く思考」と題して論文を発表しています。是非一読を!(¥1,800、税込)



《6》「そぶら・貝塚 ほの字の里」が旅の達人がすすめる西日本の代表的な宿に選ばれる

PPIが企画・計画・設計し、このたび第21回大阪まちなみ賞を受賞しました「そぶら・貝塚 ほの字の里」(P-voice vol.1 に紹介)が、日本旅のペンクラブ関西部が企画・編集した「旅の達人がすすめる」シリーズ『西日本の宿 21世紀の憩いのかたち』(白川書院)で、西日本50の宿のひとつ(大阪府下では、ほの字の里のみ)に選ばれ、紹介されています。(¥1,200、税込)



《7》講演レポート

2001年秋はPPI所長三好の講演が相次ぎました。主なものを2つをレポートします。

千里国際情報事業財団・日本経済新聞社主催「まちとライフスタイルの明日を探る」セミナーが、2001年10月22日開催(場所:阪急電鉄本社ビル1階エコルテホール)され、「魅力ある新しい田園都市への展望」と題して三好が講演。200名を超える方々の参加がありました。NPOエコデザインネットワーク・ATCグリーンエコプラザ主催の「第4回エコデザインセミナー」が2001年11月9日開催(場所:ATCグリーンエコプラザ多目的スペース)され、「都市のエコデザイン グリーン・アーバニズムの提案」と題して講演。100名程の方々の参加がありました。



まちとライフスタイルの明日を探る / エコデザインセミナー

<http://www7.airnet.ne.jp/ppi/hot/pres1109.pdf>で上記の2つの講演会の詳細を御覧になれます。

## 第34回 PPIフォーラム

2001年6月8日に第34回PPIフォーラムを開催し、大戸寛氏(株)医療福祉プランニングオフィス)を迎え、「アメリカ、オーストラリア、ヨーロッパ型の医療、高齢者問題について」というテーマで講演をしていただきました。当日はアメリカのラスベガス、フェニックス、アリゾナなどにおける高齢者施設や高齢者住宅街など、先進的な高齢者対応型のまちづくりの事例を紹介していただきました。なかには、ゴルフ場に面して形成された高齢者住宅街で高齢者はカートでまちなかを移動できるといった日本に比べてユニークな事例もありました。氏は「日本においては少子高齢化の急激な進展や地方と大都市との経済格差などによって高齢者のための住宅市場が死んでいる。これらの市場を活性化させていくような事業を手がけていきたい。」と締め括られました。



フォーラム風景

## Next movement

《1》イデオガーデン川西山手台(計画戸数17戸) 戸建住宅着工間近

兵庫県川西市において、『計画戸建だからこそできるまちづくり』をテーマに、背後の豊かな里山の雰囲気を継承した、緑豊かな住宅地を計画中です。

そこに住む人達がいきいきとした四季の彩りを五感で感じられ、住まう人達の交流が自然と育まれるような環境を創り出し、住まいにおいては、家族と温かみや、家に居ながらにして自然を感じられるような心地良い空間になるような配慮をしています。

平成14年の春には、この街で新しい家族の暮らしが徐々にスタートする予定です。



イメージパース

PPI担当:三好、内田、鶴野、近藤

《2》近畿市長会で講演予定

PPI所長三好が、近畿市長会で「事例にみる都市環境デザイン」と題して、2002年1月23日講演をします。

《3》欧州大規模都市開発事情調査予定

PPIでは、複数の都心ビッグプロジェクトに参画しています。そのための参考情報収集のため、2002年2月末~3月上旬に、ドイツ、オランダ、イギリス等のビッグプロジェクトについて、その都市的仕組、課題等について三好が調査に行く予定です。

## 編集後記

2001年はみなさまにとってどのような年でありましたでしょうか? 昨年の出来事の中で私の脳裏に鮮明に記憶に残ったのは、やはり、ニューヨークのワールドトレードセンターに飛行機が突っ込んだあの映像でした。都市に関わり、少なからず風景を創っていく仕事をしている我々にとって、テロによって一瞬にして風景が変わる瞬間はたとえようの無い怒りと悲しみを覚えました。

さて、2002年を迎え、ここにお届けするVol.3は現在進行中のプロジェクトの紹介と、PPIが日夜、多くの議論を繰り返しながら取り組んできたプロジェクトが受賞したニュース3本を報告させていただきました(詳細はP-voice Vol.1、Vol.2に紹介しています)。賞を取ることが目的ではありませんが、取り組んできた仕事に何らかの評価が得られたことは大変うれしいことです。今後も、様々なプロジェクトを少しでも良いものにするために躍進していきたいと思えます。(近藤)

## 編集・発行

(株)PPI計画・設計研究所  
〒540-0021 大阪市中央区大手通2-2-2  
トーンアップビル7F  
TEL 06-6949-0901 FAX 06-6949-0902  
E-mail: ppi-osaka@pop07.odn.ne.jp  
URL: <http://www7.airnet.ne.jp/ppi/>  
2002.1.1より  
URL: <http://www.ppi-osaka.com>

でも御覧いただける予定です。

(ホームページ上でもP-voiceが御覧になれます)  
発行責任者:三好庸隆  
編集担当者:近藤秀樹、川村 崇